



福井商工会議所青年部会報

発行日／平成24年4月18日

発行者／宮 本 武

編集者／朝 田 健 一

発行所／福井商工会議所青年部総務・渉外委員会

福井市西木田2-8-1

TEL:0776-33-8253

FAX:0776-36-8588

福居



vol.112



<http://www.fcci.or.jp/fyeg/>



福井商工会議所青年部
平成23年度会長
宮本 武

YEG魂で 未来への挑戦!!

無から有を生み出す発想力と
行動力で、新たなステージへ

平成23年度はスローガン「YEG魂で未来への挑戦!～無から有を生み出す発想力と行動力で新たなステージへ～」の元、様々な事業を展開してきました。青年経済人に備えるべき能力や可能性を探し、発見し、培っていき、その成果を地域に還元する場として機能すべき我々福井YEGは、今年度まさにその挑戦を続けました。そして新たなステージへメンバー全員が上がる事ができたと感じております。皆の活動が地域の活性化に繋がり、それぞれのスキルアップに繋がっていった事は、感謝の一言につきます。

今年度経験した事を、自企業の発展、自分自身の発展、地域の発展に!全国的にも注目されつつある福井YEGであります。まだまだ道半ば。やるべき事は沢山あります。その事をYEGらしく楽しんで事業展開し、今後もそれぞれにある“YEG魂”を遺憾なく発揮し、ますます元気な福井を創造すべくメンバーと共に活動していきたく思います。充実した平成23年度をありがとうございました!



【取材担当：松井良平】

4月定期総会・例会

20日(水)福井商工会議所ビルに於いて、総務・渉外委員会担当の「平成23年度定期総会」と、会員交流促進委員会担当の「4月度例会」を開催いたしました。平成23年度宮本会長の挨拶から始まり、22年度決算、23年度事業計画案及び予算案などの議案審議があり、満場一致で可決されました。

その後行われた、2010きらりYEG大賞では、個人賞に「松田 将裕君」、委員会賞に「会員フォローアップ委員会」が大賞を受賞しました。松田くんの受賞理由の中で大変印象に残ったのは、「総務委員長をうけた際に、全事業に参加するという意識を持って委員長を引き受けた」という逸話が紹介されて、それを達成されていたということに非常に感嘆を受けました。総会を挟み、4月度の例会が行われました。

冒頭では今年度の委員長が個性あふれる委員長の所信表明を行い、今年にかける意気込みを語ってくれました。例会タイムでは、「リアルチェーンパウルトラクイズ」と題し、商工会議所の各課の課長さんをゲストにお迎えし、クイズ形式で、商工会議所の業務内容や、利用の促進など、普段表面的にしか知ることのなかった商工会議所の中身を、各課の課長さんから説明いただくと共に、クイズ形式でより理解を深めるいっきっかけになったと思います。

青年部の会員は、商工会議所の会員でもありますので、その会議所に入会しているメリットを十分に活かして、セミナーや経営相談など、無料または格安で相談にのってもらったり、受講することができずの是非



平成23年度4月定期総会
若菜 への挑戦!

利用してみたいかがでしようか?
この日ももちまして、正式に平成23年度宮本丸の出版となりました。

ことし1年間「YEG魂で未来への挑戦」をスローガンにYEG会員全員で宮本会長を支え、さらに福井YEGが新たなステージへ向かっていけるように全員で頑張っていきたいと思います。

5月度例会

5月25日、5月度例会を開催いたしました。タイトルは「青年経済人(YEG)としていち早くソーシャルネットワークを学び新たな自分を発見しよう」。

タイトルが長いといったご意見もありましたが、それはそれは、委員会内で議論した結果のこの文言。多少長かつたって、思いが詰まっていれば大丈夫。

今回の例会では、2名の講師をお招きしての開催。お二方とも、鯖江YEGに所属されておりソーシャルネットワークにおいて県内でも有名な田辺一雄氏と西村昭宏氏です。

また、例会講師のオフアールから打ち合わせまで、ソーシャルネットワークの一つである、Facebookを活用して行われました。

例会は、ソーシャルネットワークとはどういったものから始まり、ソーシャルネットワークの中でも世界中で5億人のユーザーがいるFacebookの活用事例、Facebookをうまく



使いこなすには、そして、今後のソーシャルネットワークの展望について熱く語っていただきました。

途中、西村講師から紹介いただいた映像の中では、アメリカでは8組に1組がソーシャルネットワークで出会う世界が訪れることが予想され、5000万ユーザーまでの到達年数ではラジオ・・・38年、テレビ・・・13年、インターネット・・・4年、Pod・・・3年、Facebook・・・1年足らずで2億人といった実績も紹介されました。

また、田辺講師からは「自身が活用しているFacebookのグループ機能の紹介やイベント機能の活用など、実践的な面を紹介いただきました。」

田辺講師、西村講師共にソーシャルネットワークを楽しんでいるご様子が伺え、受講しているメンバーも興味津々に聞き入っていました。

時代の変化に対応していくことが、生きていくための必須条件。この時代の変化をとらえ、ビジネスに、YEG活動に、プライベートにうまく活用していくことが青年経済人として必要だと感じる例会でした。

【取材担当：森下峰雪】

6月度例会

22日(水)、福井商工会議所地下国際ホールにおいてビジネス研修委員会(今井順也委員長)担当の6月度例会を開催しました。

本例会は青年部会員以外の方も参加対象とするオープン例会として、法政大学大学院教授の坂本光司先生を招いての講演会を行い、約100名参加の盛況となりました。

講演タイトルは「日本でいちばん大切にしたい会社」から学ぶ人と社会を幸せにする経営」とし、坂本



先生のベストセラーとなった著書の内容にも関連したお話を頂きました。ちなみにこの講演タイトルは当委員会で考えたものですが「YEGがこんな素晴らしいタイトルを考えつくとは驚いた！」と講演の中で先生にも褒めていただきました。

なお、坂本先生は過去に福井県立大学の教授をされていたこともあり、福井にも大変馴染みの深い方です。

当日はまず、青年部の取り組みを会長が紹介し、過去の地域活動等をまとめたDVDを上映して、一般参加者に対する青年部のPR活動も行いました。



取材担当：今井順也

青年部ではこれまで社会貢献活動を数多く行ってきたっており、企業経営は社会に貢献するために行うという主旨での坂本先生の講演は青年部としてあるべき姿に近く、意義深い内容であったと思います。

講演の冒頭では、下請けから利益を搾取したり、従業員を大切にしない会社が多数存在することに對し、「あつてはならない」と述べ、真に正しい経営とは何かについて、熱く語って頂きました。

様々な会社の事例や東日本大震災の復興に関連した企業のエピソードを交えながら紹介し、話が進みましたが、特に障害者雇用についての話で、「人に頼られたり、人に認められたり、人に必要とされるといことは働くことでしか実現できない。人は金のためではなく幸せのために働く」と話されたことが印象的で、一般参加者（商工会議所会員）のアンケートの中にも、先生の話を踏まえてもう一度自社の経営を考え直したいといった感想が多くありました。

当日は質疑応答の時間も25分程度とつていましたが、参加者の質問も絶えず、非常に濃い内容であった

いう間に時間が終了しました。

ビジネス研修というと、売上アップやマーケティングの手法などの経営戦略に関連したものが多くですが、今回の講演はその前段階の「企業の存在する意義」から考える内容で、講演終了後、会員からは「今まで考えなかった新しい視点からの話だった」というような感想もありました。

判断基準として

・動機が善であるか？

・儲かるか否かではなく正しいか正しくないか？

・企業経営をしていくとこういった当たり前のことも忘れてしまいがちになりますが、青年経済人として自社の在り方を再考する良い機会をもらえる例会となったと思います。

【取材担当：今井順也】

7月度例会(3)地区交流会

平成23年7月9日に勝山YEGを招いて、福井YEG主管の三地区交流会がホテルフジタ福井にて開催されました。

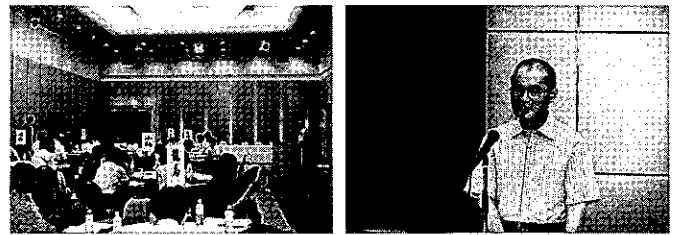
福井YEGメンバーが先に集合し、勝山YEGを迎えます。

今回県連役員より会長以下3名、勝山YEGより7名、のご参加をいただきました。

今回の三地区交流会は勉強と交流を目的としており、二部体制で開催しました。

一部目の企画、講演会と街中歴史探訪。

本川先生による講演会「くもレドラク もし横井小楠が大河ドラマになったら」というタイトルで福井の偉人横井小楠を中



取材担当：今井順也

心に幕末の藩政や人の動き、福井という地域にまつわる話をお聞きします。

そしてその講演を踏まえたうえで、「街中歴史探訪」を開催しました。

福井城址を中心に街の中をじつさい歩き、講演の中にでてきた人物、話、などのゆかりの場所をめぐります。

チェックポイントごとに回ってきたチームに解説をし、頭と体で地域の歴史を知っていたたく企画。

当日は非常に暑い一日でしたが、皆さん保冷材を首に巻き、表裏帽子をかぶり、探訪をされました。

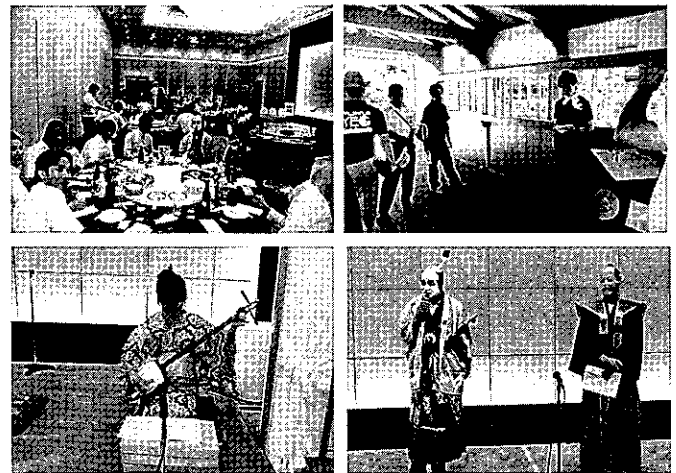
そしてお待ちかねの懇親会。

しゅんちゃんしようちゃん司会のもと、楽しい時間が過ぎていきます。

景品ありのクイズ企画、勝山YEG企画運営のじゃんけん列車、そして二人羽織と大盛り上がりの懇親会でした。

山本直前の三味線の中でも披露されました。場の雰囲気とあつていて、とても良かったです。

最後は県連役員も、勝山YEGも皆で肩を組み、の



取材担当：今井順也

びゆく大地を歌います。皆がひとつになった瞬間です。名残惜しくも、県連役員の皆さま、勝山YEGの皆さまを見送ります。



取材担当：天野準一

最後に福井YEGの皆さんで「ドドスコバ」にて今年度の三地区交流会は閉幕しました。

今回は人と人とのつながりが産む力の大きさというものを実感した例会でした。改めて、このたびは多数のご参加をいただきましたことにありがとうございます!!



取材担当：天野準一

【取材担当：天野準一】

8月度例会

8月6日(土) 快晴、お祭り日和。8月度例会としてフェニックスまつりへの参画事業が行われました。今年の内容は、順化エリアのお店を巡りながら歴史にも触れる「どまんなかまち歩き」ならびに「クイズラリー」、子どもたちの願いをこめた短冊を風鈴につけて展示する「子ども風鈴プロジェクト」、フェニックスまつり会場に賑わいと滞留の場を演出する「緑日広場」と盛りだくさん。

「どまんなかまち歩き」では、老舗コース、スイーツコース、ものづくりコース、の3コースに延べ約40人でねり歩きました。順化エリアという夜の街のイメージですが、実は伝統と文化の根付く個性的なお店もたくさんあるんだということを参加者に伝えました。参加者の中には、「普段歩き慣れた道なのに新しい発見がたくさんあつて新鮮だった」という声も聞かれました。そして次の日の新聞には「しっかりと写ってるじゃないですか」天野君が、これでこの夏3回目？商売のPRもバッチリですね。



取材担当：天野準一

「子ども風鈴プロジェクト」では、約1300枚の短冊がついた風鈴を、全長約20メートルの枠組に取り付けるという事で、設営からメンバー総出で取り組み、北海道大学の「縁」の学生さんたちも手伝ってくれました(汗)設営が終わったころ、すでにメンバーはぐったりしていたとか(笑)しかし、出来上がった「風鈴ロード」は圧巻でした。鳴り止まない鈴の音色、せせらぎのようにはためく短冊、すだれとミストシャワーによる涼の演出。多くの人が足を止め、見上げていました。また、お子さんが書いた短冊を見、家族で来場してくれた方も多数みられました。子どもたちの思いが、しっかりと形になったと思います。

「緑日広場」では、風物詩となりつつある巨大スマー トボール、ボールすくい、射的、の各ブースで子どもたちを迎えました。自他共に認めるボールすくいキングの山口君(記録41個)と子どもたちの真剣勝負!!61個をすくったつわもの女の子の前に無念の1敗を喫したものの、さすが昭和の子どもの貫禄を見せつけました。射的では、朝田君所蔵のもはやコレクターの域に達してい



取材担当：天野準一

るウルトラマンシリーズのフィギュアを駆使し、板倉君が的を演出しました。ウルトラマンが怪獣に、食われる、はさまれる、巻きつけられる、持ち上げられる etc.といった一見教育上よろしくなさそうな風景も子どもたちに大ウケ。中には写真に収めていく人たちも見受けられました。遊び心を忘れない姿勢はステキですね。

えきまえアントレ・キッズまつり

宮本会長の挨拶の中にあつた、「まずは自分達がまつりを楽しみ、人に楽しんでもらい、そしてまちづくりに貢献する」という姿勢が随所に見られた、そして実践されていた事業だったのではないかと思います。まつりにこそYEGらしさが出る、と感じたのは私だけでしょうか？

【取材担当：佐々木俊一】

今年も、えきまえアントレ・キッズを7月30日に実施しました。平成20年からスタートしたこの事業も、早4年！認知度も上がり、ご参加ご協力して頂ける企業も増えました。

平成20年の第一回では、140名の定員を集めるにも一苦労。YEG会員の子ども達から、親戚まで、声を掛けて集めたことを思い出します。しかしながら、今回は、インターネットでの受付30分にて、第一回の約倍である230名の定員が完売、えきまえアントレ・キッズの知名度、期待の大きさを感じられた瞬間でした。

参加して頂いた、えきまえ商店も第一回の13社から、23社、更にYEG企業も、第一回4社から9社と大幅にUPしました。松田副会長のマナー講師にて、子ども達は、準備を整え、体験スタート！見守る保護者の方が、緊張仕切りました。思いつ



取材担当：天野準一

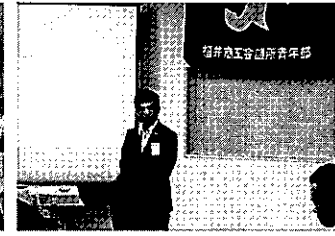
きり楽しみながら参加した子どもから、思うようにできず、泣き出す子どもまで、それぞれの体験が実施され、いずれも良い経験になったのではないかとおもいます。YEGは、50名もの会員にて、このえきまえアントレ・キッズを下支えし、まちのにぎわい創出と未来福井の産業の担い手達に大きな刺激与えられた1日であったと思えます。



【取材担当：清川卓二】

新入会員 オリエンテーション

9月21日(水) 19時より福井商工会議所ビルにて新入会員オリエンテーションが開催されました。今回は新入会員の参加者9名、奥深いYEGについて各会員方による事業実績談や経験談で少しでも新入会員の方々にYEGを知ってもらい、これからのYEG活動にスムーズに参入できるようにとの思いで行いました。

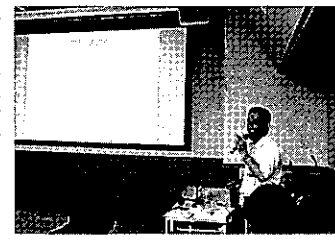


網領、指針唱和後、朝田委員長の計らいで現会員と新入会員の全員での友情の握手が行われ、緊張感のあつた空気が一変にして和やかになりました。各委員長、事務局の挨拶では、各自委員会を分かり易く、そして熱くアピールしていました。規約では3択のクイズ形式にして、全員参加で行いました。少し悩むところもあり、全問正解者は0でした。残念！

それから過去の事業紹介、YEG内サークル(若芽会)、エンジェルタツチの利用法、日本YEG専門委員、福井県連YEG理事など各担当の会員が実績談や経験談を交えながらの説明が行われました。懇親会では新入会員の挨拶を行ない、親睦を深めました。

9月度例会

9月28日19:00福井商工会議所国際ホールにて、ディスカバリー委員会担当の9月度例会、タイトル「災害から会社・家族を守る為」を開催し、福井防災センターの山本署長にお越し頂き、お話を聞かせていただきました。



福井市が、今後30年以内に「震度6」以上の揺れに見舞われる確率が、6%、26%もあるのか!? 福井市内でも液状化現象が起こる可能性のある個所があるのか。

知らなかった、身近な危機。また、社内防災マニュアル作成の重要性及び必要性。その他にも、泥水ろ過の実演での驚きの成果、太陽光線の以てなす力など。平時からの準備の大事さ、いつ起こるか分からない災害への備え、準備の大切さを発見(DISCOVERY)出来た、例会



10月19日(水) 19時より、福井商工会議所ビル地下国際ホールにて、ビジネス研修委員会(今井委員長)担当の10月度例会を開催しました。本例会は公開例会として、青年部以外の方も含め、80名弱の出席がありました。

10月度(公開)例会 「32歳で上場企業社長になった 福井人の挑戦」

講師には福井市出身で現在は㈱カーチスホールディングス(東証2部上場、自動車買取販売)の代表執行役社長をされている富田圭潤氏を招き、社長就任の経緯や経営に対する考え方などを講演頂きました。



富田氏は若くして上場企業の社長になっただけでなく、長年赤字続きだった業績を立て直し、就任直後から黒字転換させています。そのやり方についてはご本人いわく、「特に変わった事は何もしておらず、収益の構造を理解して利益の源泉を見つけ、改善できる数字から変えていくように社員を指導していった」ようです。具体的には自動車買取販売の場合、成約率より台粗利を重視し、そのためにすべきことを数値化して社内の意識改革を促していったとのことですが、言葉にするのは簡単でも強い意志と実行力があつてこそ成せることだと思います。

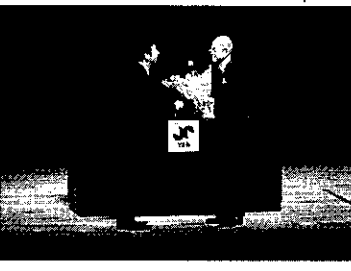
また、個人的に印象に残った言葉としては、基本に忠実に改善できる数値から地道に取り組む姿勢を

「ブルでジャンプできるか?まずは足場を固めてからだろう」という言葉で表して社員に伝えるエピソードなどが説得力を感じました。

第29回近畿ブロック大会 明石大会に参加して

平成23年10月29日(土) 30日(日)、兵庫県明石市において第29回近畿ブロック大会が開催されました。福井YEGは29日の午前5時15分に福井駅東口バス乗り場に集合とのことで眠そうな目で集合場所に集まって来ましたが、待てど暮らせど約1名の姿が見えず携帯電話に連絡すると何とまだ自宅とのこと。昨晩飲み過ぎで起きられなかったようで急遽、自宅付近までお出迎えすることとなりました。その後、鯖江と武生で参加者を乗せて高速に乗り、一路明石へと向かいました。

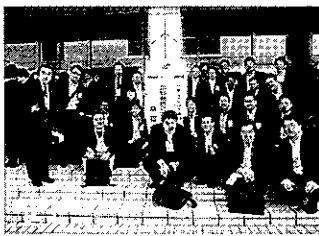
【取材担当：今井順也】



加したYEG会員(福井YEGではない)が講演最中に足音を立てて大勢会場に入ってきたり、演台の近くで寝ていてイビキがしたりとマナーが最悪であったため、講師として話に集中できずどのような話をするか考えていたために、途中の3分間くらい全く話をせず沈黙で会場全体が静まりかえることとなりました。

主催者側は途中入室者を制限するとか寝ている人に注意をするなど何か行動を起こして欲しかったです。そのせいで講演内容はテーマとはかけ離れた内容となり、講師の生い立ちや今までの経歴話となり、そのなかでも「やる気のある人はあまり成功しない」「他薦で仕方なくやる人が成功する」との内容がありました。私はこの話を聞いて、ずば抜けた才能があった場合、結果的にはそうであってもあまり納得はできませんでした。我々は青年経済人で会社組織を運営する者として「やる気を出させ、才能問わず、やる気のある人に仕事をしてもらう」ことが大切ではないかと思いました。

講演が終わる次は分科会。第1分科会から第7分科会まであり私は第3分科会の「明石海峡の探訪」でした。明石海峡大橋は世界一の長さ(1991m)で高さは東京タワーとほぼ同じ高さの333m。まず「橋の科学館」で橋の構造などの説明を受けた後、大橋のエレベーターで観光専用で作られた安全な展望場所まで昇り、橋上からの大パノラマ風景や足元がガラスで覆われた海面までの高さを感じる体験で驚きとともに足がすくみました。



高速渋滞もあり10時開催の記念式典に少し遅れて大会会場である明石市アワーズホールに到着したため、式典が厳粛なムードで始まっており、慌てて席に着きました。式典が終わると次は記念講演。講師として『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』の著者、岩崎夏海氏が『もしYEGがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』を講演テーマとして縁台に立ちました。

分科会が終わる次は待ちに待った大懇親会。場所は変わり、シーサイドホテル舞子ビラ神戸に移動し乾杯の挨拶を待ちました。食事は海の幸が中心でアナゴの寿司、鯛の塩焼き、タコの中から揚げ・煮付け・刺身・酢の物、たまご焼き(たこ焼きの小麦粉とトコロ芋を卵を薄めた生地に交えたもの)などでした。お腹が空いて

【取材担当：岡山宇太郎】

11月度例会

11月22日(火) 19:00より福井商工会議所ビルにて地域活性化委員会(坂田委員長) 担当の11月度例会を開催しました。

講師は、「第21回全国会長研修会ふくい会議」商青連の企画委員会委員長 として帯広YEG会長を務められた後藤健市氏。

後藤氏は、全国にとどまらずアジアを中心とした世界に拓くまちづくりを模索し机上の空論ではなく、「北の屋台(北海道)、フィールドカフェ(北海道)、にっぽんの・・・(東京)とかちの・・・(東京)」など地域に根付いたまちづくりを実践されています。

今回はその手法を福井でもぜひ取り入れていきたいとの思いから「地域固有の場所文化を生かした持続可能なまちづくり」を「自分」で考え「自分たち」で動く、協働の実践を学ぶ」というテーマでお話しいただきました。

講演の中では、まちづくりは各地域に自主性・収益性・持続性の場をつくること。地方の豊かさを集めて日本の魅力を再構築すること。場所と文化を大切にしなければならぬ。



わざわざ人が来る場所をつくることを目指そう。こういった場所を「ハレの場」と呼び、地域の活性化につながることを大事だ。という話がありました。

「まちづくり」というと、「うちのまちには○○しか、ない」と聞くことがあります。しかし、それは何かがある、ということの裏返しではないか。そこにあるものを活かすことが本来のまちづくりの

た。スタート遅れのハブニングには冷や冷やしましたが委員会メンバーの高島さんが司会を務めて20分押しで例会開始です！

私も一言話をさせていただきました。「一生の仲間づくりのきっかけになる例会になれば幸いです！」当委員会の一年かけてのテーマですね。まずはパティシエ向井の講師のもと参加者みんなでロールケーキ作りをしました。子供の真剣な顔はいいですね。大人も真剣ですが、自作ロールケーキも出来たところで、パーティーの開始です！

今回委員会内で、「一人で参加しても楽しいレクリエーション例会にしよう」という話をしてきており、企画盛りだくさんの例会になりました！パーティーが始まり、まずは全員参加の「おきて作り」です。家族単位で家族のおきて、自分のおきてを作ってもらいます。

書いて頂いたおきてはアルバムにはさみ、作ったロールケーキと撮った写真は皆さんで最後にプレゼントしました。そして会員参加の「ジェスチャーゲーム」！

参加者にも、そして見ていた皆さんにも楽しんでいただけたのではないのでしょうか。続いて「縁玉ゲーム」。じゃんけんをして負けた人に自分の持っている五円玉をあげる、シンプルなおゲーム。

知らない人同士で自己紹介と、小さな会話のきっかけになった



姿なんだと。

例えば、イスとテーブルを置いて、その時一番おいしいものを飲み食いすることも一つの方法。「場所の旬」を最大限に活かすことで、地域に活力をあたえることもできます。「福井だからこそこできるもの」があるのではないかと福井の魅力を変えて考える時間を頂きました。

最後には補助金がもらえるからやる「引き算のまちづくり」より本当にやりたいことを実行する「足し算のまちづくり」を行うことが人が集まる仕組みになるのではないかと。文句・不平不満があるならその解決方法を自分で考え、自分たちでやってみよう。



お金を集め直す仕組み、人を集め直す仕組みを考えてみよう。等のメッセージを頂きました。まさしくまちづくりは企業経営と一緒だという想いが強く感じられました。

我々青年部も「たのかっこいい」を追求し、福井を盛り上げていきましょう。【取材担当：北出慎吾】

12月定期総会を開催しました。

21日(水) 18:30から福井商工会議所において、12月定期総会および懇親会を開催しました。最初に宮本会長による挨拶。

総務・渉外委員長・朝田委員長から定足数確認(会員99名中、出席者数60名、委任状数4名)。そして議長に菊副会長が議長に選出されました。第1号議案・平成24年度役員等の選出(案) 選挙管理委員会の委員長・上松君からの説明で、審議の結果可決承認。

のではないのでしょうか。そしてロールケーキの優秀者への景品授与があり、最後にみんなで「マルモリダンス」を踊りました！当初一回だけしか予定していなかったマルモリダンスですが、急遽流れて二回踊る事に。最後はお子さんステージ手前まで出てきて踊ってくれる場面も嬉しいですね。ダンスが終わり皆さんをお見送りするときは恒例の会長サンタと次年度予定者トナカイが登場し、お子さん一人一人にプレゼントを手渡してくださいました。企画また企画のぶっ通しの3時間で参加された方も少々お疲れになったのではないのでしょうか。この例会をきっかけに、奥様同士、子供同士、もちろん会員同士も少し会話が広がったならば本当に嬉しく思います。



このたびはたくさんのご参加、まことにありがとうございます。【取材担当：天野準一】

年初めのご祈祷会に参加

平成24年1月18日(水) 福井YEGメンバーが実施する事業成功を祈願するため、毛谷黒龍神社にてご祈祷会に参加しました。

毛谷黒龍神社は、九頭龍川の守護神として創建され、日本古来の四大明神の一つとされるお社であり、降魔調伏のパワーを授けてくれるパワースポットとして全国的にも有名で、厄除けや生命力の向上、子授け・安産祈願や商売繁盛の神社とされています。

まずは、前厄・本厄・後厄にあたる会員の名前が次々に読み上げられ厄払いを実施。その後、張り詰めた空気の中、我々の代表である宮本会長が神前にてお祓受け、続いて高木次年度会長が



第2号議案・平成23年度基本方針(案) 次年度会長・高木君より説明。審議の結果可決承認。そして次年度会長・高木君の挨拶です。

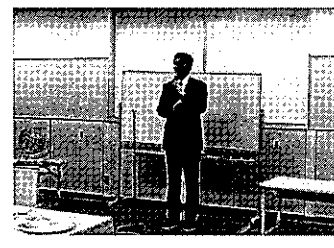
平成13年に入会してから学びの場だったということ、YEGにあれば相談相手があったということ、YEGとは「緊急ではないけれど重要な仕事」ということ。高木次年度の考え方や感性が分かりやすい言葉で話され、とても印象深いものとなりました。

そして最後に記念撮影を行い、無事定期総会は終了いたしました。その後、商工会議所会議室A・Bにて懇親会を開催。今回は総会と同じ会場で行うことで懇親会の出席率も上々。次年度会長の高木君を盛り上げたいという、総務渉外委員会の思いが実りました。

清川次年度日本YEG役員の挨拶、伊藤洋一君による市政報告および今年一年の感謝の言葉。懇親会スタート。

なかでも、ピング大会では、朝田委員長からの「越前かに」や、川端君からの「黒龍・しずく」など超豪華商品を狙って、皆さん真剣に楽しみました。最後に高木次年度による一本締めで今年一年のYEGを締めくくりました。

未曾有の大震災で激動の一年だった今年。来年も高木次年度のもと、人と人とのつながりをもって明日につながるよう積極的に活動していきましょう。【記事担当 北嶋さおり】



12月度例会

「マキモのおきて」Xmas開催!! 12月11日に開催しました12月度例会「マキモのおきてクリスマス」雨のため駅前の駐車場が込み合い、スタートが遅れるというハブニングから始まりまし

次年度の成功を祈願しお祓いを受けました。また、参加会員も着座のまま1人ずつ全員お祓いを受けることができました。権禰宜から「今年には辰年なので何か目標を立てて達成して欲しい」とのお言葉がありました。が、「我々 福井YEGも高い目標を掲げ達成していく必要がある」と心が引き締まる思いがしました。

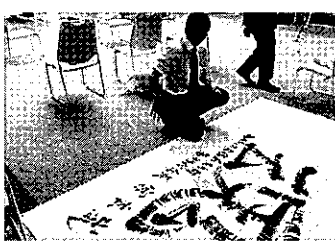


昨年同様にご祈祷会ですが、このように会員が一同に会し1年の成功を祈願することは会にとつて非常に大切なことだと思えます。会員の皆さん!今年度、そして次年度へと、力強くそして楽しくYEG活動に取り組んで行きましょう! 【取材担当：松田将裕】

1月度例会

1月25日(水) 19:00より福井商工会議所ビルにおいて「ディスカバリー委員会(板倉委員長)担当の1月例会を開催いたしました。

「和」をもって新たなステーションへ」という新年一発目の大事な例会ということで、自分を見つめ直し、目標を書いてもらう事で新たなステージに上がるのきっかけを発見していただきたいという思いがありました。



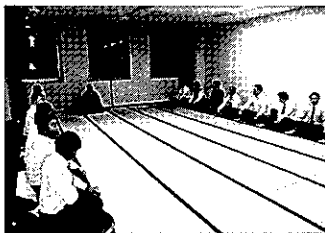
この日は前日から続く大雪が、例会前の設営準備しているデイスカバリー委員会一同の心を不安にしました。「この雪では参加人数減ってしまふ・」。「7時の時点で人数何人いるだろう・」など。しかしながら、その不安を吹き飛ばしてくださるほどたくさんの方々に参加して頂いて本当に感謝しています。



今の自分を知ってもらおう為に「デイスカバリーチャート」という自己診断チェックシートを行いました。25問の設問で事細かく診断結果がでてきます。これがまた良く当たってるんですよ。例会の時にはじっくり読む時間がなかったかもしれないですが、時間があるときにでもじっくり読まれてみてはいかがでしょうか。

次に自分を見つめ直そうということで、「坐禅」と「華道」を体験してもらいました。初の試みでもある分科会方式です。分科会の振り分けはなんと「おみくじ」でした。自分の座っている椅子の裏に封筒があり、その封筒の中に坐禅or華道が書かれた紙が入っているのです。そして各々分科会に移動し、分科会が始まりました。

坐禅は講師といたしまして臨済宗妙心寺派の住職花房禅師様をお迎えして行いました。お寺の雰囲気は近付けるように全面畳を敷いた事で、より坐禅に集中でき、自分をしっかりと見つめ直すことができたのではないのでしょうか。



華道は講師といたしまして小原流福井県支部長の平田泉悦先生をお迎えして行いました。実際に自由に生け花体験してもらい、自分が生けた作品を先生に評価してもらおう流れでした。褒められた

メンパーもいれば、逆にダメ出しされたメンパーもいましたね。楽しみながらも自分を見つめ直すことができましたのではないのでしょうか。

デイスカバリーチャートの結果や分科会を踏まえての目標の書き、みなさんはさすがでした。短い時間にも関わらず、確実に新たなステージに上る為の目標が書けていました。さらにその目標に魂を込める為、自分の手形を上から押しもらいました。もう一つ我が委員会の思いとして、全メンパーの手形を押しした幕を会長に手渡ししたく、「魂」の文字が入った幕にも手形を押ししてもらいました。もの凄くカッコいい幕が出来ました。

内容ぎっしりの例会でしたが、みなさんの協力のおかげで無事終わることができました。本当にありがとうございました。是非今回書かれた目標を全員が達成し新たなステージに上っていただけることを期待しています。

【取材担当：中川知士】

2月度例会

「第28回」
福井県商工会議所青年部連合会
会員大会 敦賀大会

平成24年2月4日(土曜日)に敦賀で会員大会が開催されることとなり、2月に入り降雪が激しくなる中で大会のため集合時間が早まり、福井駅東口に10時半の集合となりました。当日は非常に寒い福井らしい天気でしたが福井YEGのメンパーは寒さ堪えてバスに乗り込み敦賀に向かいました。

敦賀に到着し食事をヨロロツバ軒敦賀店でかなりボリュームのある「かつ丼」を食べて再びバスに乗り込み出発し、すぐそばにある会場の「きらめきみなと館」に到着しました。



会場では敦賀YEGが出演していた、歓迎ムード。会場前

日本商工会議所青年部 第31回全国大会 越中富山大会に参加して

平成24年2月17日(金)、18日(日)にかけて、日本商工会議所青年部 第31回全国大会越中富山大会に、福井商工会議所青年部総勢19名で参加しました。

昨日(2月16日)までは雪が降る気配が全くなかったのですが、17日(金)の朝8:00前に集合した時には雪が本格的に降ってきて、富山へ行く手を阻んでいるかの様でした。我々はバスで移動したのですが、大雪による事故や渋滞の影響で富山到着が大幅に遅れ、第6分科会の富山市内散策に間に合うことができず、富山国際会議場で行なっていましたYEG大賞とビジネスマンコンテストのプレゼンを見学しました。

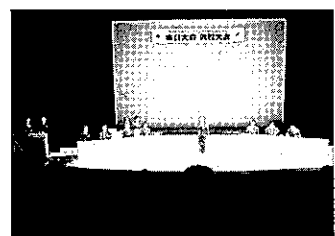
その後、場所を富山市総合体育館に場所を移して18:30から立食形式の大懇親会を行ないました。オープニングでは五箇山麦屋保存会の方々「笠踊り」を披露して頂き、山田実行委員長より気合のこもった開催宣言を頂戴しました。次に圧巻だったのが鎧兜を身にまとった尾山大會会長が馬に乗って登場し、馬から降りてエアードリフトを使って風船を割った後に挨拶をしたことです。兵頭日本YEG会長挨拶、来賓紹介の後、西日本YEG直前会長がコンパニオン約300名に取り囲まれた状態で乾杯を執り行いました。(ウラヤマシイ・・・)



富山の幸を堪能し、富山YEGの最高のおもてなしを受けた大懇親会後は、場所を居酒屋「あがれ家」に移して秋田YEGのメンバー7名と交流会を行ないました。その席で秋田YEGは今年の7月7日に記念式典を行なう予定ですので福井YEGの方々も是非お越し下さいとの事でした。行ける方はご参加お待ちし

での記念撮影も終わり早速、13時からの福井県商工会議所青年部連合会臨時代議員総会の会場に入りました。

手順通りに会が進み、議案審議の次年度の役員(案)について承認され閉会となりました。



13時45分から式典、開会宣言、国歌斉唱、など滞りなく行われました。

15時から各テーブルに分かれてのフォーラムが1部と2部にわかれて始まりました。一部は①エネルギー②交通などの基盤整備③教育④商工業振興の4つの今後の問題について議論しました。

私は①エネルギーのテーブルでしたので福井YEGのOBで歴代県連会長の一人である永井先輩と同じテーブルで緊張しての議論となりました。

21世紀はエネルギーの時代と言われるほど、これからのエネルギーをどのようにするのが世界を通じて重要になってきています。

開催地が敦賀なので原発を賛成か反対か各人に問いあわせ各々の考えを述べていただきました。

永井先輩から太陽ソーラーパネルで原発1基分をまかなうには鯖江市全体をソーラーパネルでまかなえば同等の発電量ができるとのこと。もちろん日照時間があつての話ですし効率が悪いので現実的ではないとのことでした。

私は賛成ではないが原発の代替エネルギーが無い現状をかんがえると依存せざるを得ないと思います。もし原発を全てストップさせると日本の産業がストップすることになりGDPは大幅に減少することになるでしょう。

反対意見としては福島のような惨状を目の当たりにすると、とても今後原発に依存していく気持ちにならないとの発言もありました。



福島原発を教訓にして人間のやることですからミスは発生しますが、それが大きなミスにつながらないように行なわれました。

まず、記念式典の中で印象的だったのが東日本大震災にみまわれた方々に対して、いすの背もたれの上にあつた蛍光塗料の入ったものを後ろの席からステージに集めて、巨大な「元氣玉」を作り上げたことです。また、26年ぶりの大雪で積雪83センチにもかかわらず、登録者数が4,674名あつたと司会者の方から報告があつたことです。中でも尾山大会会長の挨拶の中で、大雪で飛行機が飛ばなかったのかわからず、電車や自動車に変更してわざわざ駆けつけて頂いたメンパーが大勢いることに感謝し続けていました。YEGメンパーは頭ではなく熱い心で動いているすばらしい集団だと改めて実感した瞬間でした。

続いて記念講演では、櫻井よしこ氏を招いて『この國の行く日本が日本人であるために』というお題目で講演頂きました。急激な世界状況の変化の中で我々日本人も変えていかないといけないということ、現在の日本政府の状況や中国、台湾、韓国、北朝鮮の現状、特に中国に対しての構え(サイバー戦争や軍事的・経済的な他国への侵食など)を踏まえて、今後我々日本人は危機意識を大きく持ち、自國の歴史のみならず他國の歴史も知り、現状課題を問題提起する。そのことについての解決の糸口として憲法改正を行なうべきということをお話されました。

記念事業では、サンブラザ中野くんをお迎えしてライブを行いました。ちょうどこの頃お昼の時間でしたので、おそらく会場の皆様におかれましてはお腹がすいていたにもかかわらず、大変盛り上がりおられました！

2日間に渡り(日本YEGの役員の方におかれま

うに想定外も予想して何重にも安全管理して欲しいと思えます。

2部のテーマはYEGの①高齢化・若手充実②子供たちの教育について③家庭の両立④健康⑤入会して良かったこと悪かったこと⑥参加率と会員増加方法について議論しました。

私のテーブルでは⑥について議論し特に今後のYEGの存続にも係わることなので他の単会がいかにして会員増強に努めているのか聞きました。

ある単会では会員1名入会すると推薦者に1万円支払うことで27名の新入会員を増やした事例もありとても参考になりました。

17時45分から大懇親会がフォーラム会場横で行われましたがフォーラム会場もそうでしたが、当日が寒波で寒かったことと会場が広いため暖房が効きにくかったことで、上着をバスに置いてきてしまったことを後悔しました。

会場では敦賀YEGのみなさんが心を込めた海の幸中心の食事と腕相撲大会や何故かバナナとカップヌードルの早食い競争、面白おかしい何故かバナナの着ぐるみを着た司会進行役などのアトラクションで大いに盛り上がりました。

村田君、宮本会長、山本直前、高木次年度、大変お疲れさまでした。

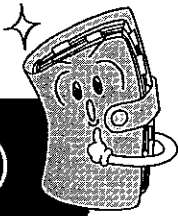
最後に『上をむいて歩こう』を福井県のYEG同志が肩を組み円になって歌い上げました。

来年の会員大会は福井YEGが主管です。みんなの力で良い大会が行われるよう頑張っていきたいと思います。

【取材担当：岡山宇太郎】

7月25日(月)

YEGビジネス塾 “即戦” ①



7月25日(月)午前6時半より、ベルベール(福井市下馬)においてビジネス研修委員会担当の第1回ビジネス塾が開催されました。

参加者はなんと16名!

講師にはトウリ司会演出総合事務所の代表、菅原藤理様をお迎えし、軽快かつ明るいトーンでコミュニケーションの基礎を学びました。



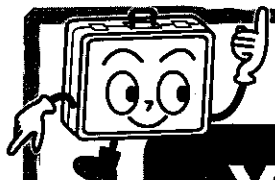
早朝ということで涼しく、また観葉植物に囲まれた会場での開催となったため、更にはコミュニケーションという取り組みやすいテーマだったこともあり、リラックスした状態で勉強することができました。

終了時刻は午前8時で、参加された皆さんはそのままそれぞれの職場へ。

効果測定は行っていませんが、きっとそれぞれの職場で実践くれたことだろうと思います(『即戦』)。

9月12日(月)

YEGビジネス塾 “即戦” ②



9月12日(月)午前6時半より、ベルベール(福井市下馬)においてビジネス研修委員会担当の第2回ビジネス塾が開催されました。

参加者はなんと14名!

講師には前回に引き続き、トウリ司会演出総合事務所の代表、菅原藤理様をお迎えし、色々なワークを交えながら、一般的には難しくなりがちな理論的な話をわかりやすく、体験的に学習しました。

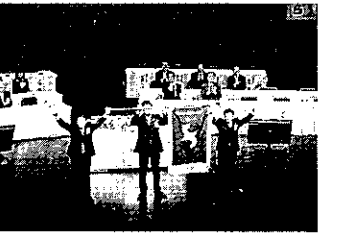
人には「自己重要感」を満たしたいという欲求があり、それを満たし、また満たしてあげることで、お互いの関係が円滑になるとか。具体的実践手法として、ペーシング、バックトラッキング、ミラーリングを学び、また自己のコミュニケーションレベルを測定する簡易ゲームも行いました。



前回と今回を通し、コミュニケーションはビジネスに限らず、人間生活において不可欠であり、かつかなり重要であるにも関わらず、これまで無頓着だったな〜と深く反省。

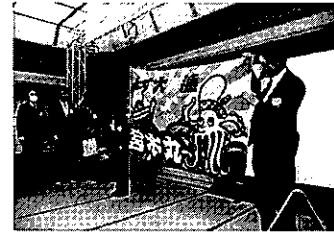
非常によい気づきが得られた「塾」でした。

では3日ないし4日ですが)全国大会に参加させて頂きましたが大雪にもかかわらず大勢の参加者がいたことに驚きでした。また、17日の大懇親会の席や18日の記念式典の最中に、次年度に開催される平成25年3月7日から10日までの「全国大会おきなわ那覇大会」のPRをさせて頂いておりましたが、沖縄県連の会員がなんと2004名の登録があったことに驚きでした。日本全国でできなかった会員の方々は、次年度以降その場の雰囲気は是非、味わって頂きたいです!

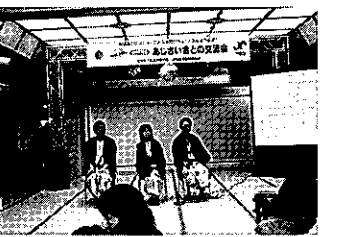


3月例会(春)Soul(魂)Party

このたびの例会は当委員会今年一年の集大成だったと思います。交流とは何か、当委員会の目的でも有ります。「一生の仲間作り」とはなにか、を考え続けた一年間でした。今回3月度例会を開催するにあたって、一番最初、新入会員の丸木さんに相談をしました。その時はまだ12月例会の企画進行中の非常に忙しいときでした。



お願いしたいんです。」12月例会班長を高嶋さんがやってくださっていて、とても大変なことはアルタイムで目の当たりにしていたはずなのに、「まだ入ったばかりの私がしてもいいんですか?」と周りの方に気を使いながら快く引き受けてくださいました。それから委員会メンバーの担当割をし、企画担当にこちらでも入ったばかりの村田さんをお願いし、丸木さんと村田さんの二人三脚の例会企画がスタートしました。企画をしてから、実行するまでの4ヶ月間、今思うとあつという間でした。さて、迎えた当日。まずは厳かにセレモニー式典から始まりました。そしてその流れで今年度会長と次年度会長の思いの引渡しの儀式に移ります。今年度の振り返り映像を北島三郎「兄弟船」に乗せて流します。そして高木次年度会長予定者より宮本今年度会長へ、当委員会で用意した大漁旗を、そしてディスカバリー委員会の1月度例会で作成した手形旗を贈呈します。宮本会長の目元が潤んでいるように見えたのは私だけでしょうか。そして懇親会に移ります。私はオープニングでダンスをするという役目をいただきました。「委員長、Soul Partyらしさを出せるかどうかはこのダンスで決まるんです!」誰かがそういつていたように思います。急ごしらえのJBダンス(ジエームスブラウンドダンス)も何とか無事(?)おわり、林あじさい会会長のご挨拶、松木先輩の乾杯にて交流会が始まりました。今回この交流会の中に、盛りだくさんの内容を入れながらもゆつくりとひざをつき合わせてお酒を飲んでもらえるように出来ないかと考えておりました。余興は要所要所で短時間で盛り上げ、あとは歓談し



てもらおう。そんな感じで、今回企画を三つ入れました。一つ目が「ほんまどつかYEG」でした。あじさい会の先輩方やYEGメンバーに前に出ていただき、過去にあったYEGのエピソードを紹介いただく企画です。YEGの奥の深さと言うか、YEGらしさが垣間見えた企画だったのでないでしょうか。二つ目が「サークル紹介」でした。今現在動いている(動き出している)サークル活動が「若芽会」(ゴルフ)、「チームディスカバリー」(釣り)、「寒気団」(スキー・スノーボード)の三つがあります。これらの代表の方に前に出ていただき紹介と、会員募集をしていただきました。そして三つ目が「景品ゲーム」でした。皆さんに大福を食べてもらいアタリの方に景品進呈、さらにじゃんけん大会で勝った方にも景品進呈。YEG会員企業の皆さまのたくさんのご協賛をいただきました。本当にありがとうございます。全ての企画が終了し、最後はあじさい会古川先輩の中メのご挨拶をいただき3月度例会は幕を閉じました。その後は旅館内のラウンジ、大部屋などで二次会を開催し、皆さまには夜遅くまでお酒を飲んでいただき、たくさんのお楽しみが生まれましたことと思います。今回の3月度例会を通して、本当に皆さんの方へ助けられ、意見、ご助力をいただき、何とか開催する事ができました。この場をお借りしまして、深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。【取材担当:天野準一】



『第5回半夏生サバ買い出しウォーキング』に参加してきました。

6月25日(土)の16:00から越前海岸四ヶ浦を出発し、26日(日)の8:00に大野商工会議所に到着することができましたが、これも偏に宮本会長を始め、応援してくださった会員の皆様、そして私と一緒に最後まで歩いた岡山副委員長に対して改めて御礼を申し上げます。

これから57キロの道中の出来事を書かせて頂きますが、カッコの中は私、朝田のその時の表情です。

最初は大野商工会議所に集合して大野商工会議所、松田専務理事の激励の言葉を頂いた後、バスに乗り込みました。バスの中ではチェックポイント「休憩所」の確認と参加者の自己紹介をしました。(少し緊張気味の表情)

2時間ぐらいいかけて越前町小樽のフィッシャーマンズタウン越前に着き、宮本会長、高木副会長、松田副会長、松井君から元気をもらい、大野商工会議所青年部、川瀬会長の挨拶の後、ラジオ体操を行ない、いざ出発！(当然、余裕の表情)

越前町の梅浦から旧織田町へ所々急

な上り坂もありましたが順調に歩きました。18:10頃に旧織田町の道の駅に着いた時には50分の休憩時間がありましたので夕食をとりました。ここでは菊副会長、小辻君も応援に駆けつけて頂きまして感謝！(まだ、余裕の表情)

ここから松田副会長も加わり福井YEGは3人で歩きました。次の旧朝日町のチェックポイントまで勝山YEGで唯一の参加者の小林君、教習YEGの5人の参加者と和気藹々としやべりながら歩いていました。ちなみに県内YEGからは総勢8名の参加登録でした。(まだまだ、余裕の表情)

次のチェックポイントである鯖江市石田上町のセブイレブンから見谷君が加わり、福井市三十八社町のセブイレブンまで歩いてくれました。三十八社町のセブイレブンではなんと見谷君のフィアンセが(驚)挨拶をしているうちに休憩時間があつという間に終わり、行こうとするといつの間に(驚)上松君がここから愛車のマウンテンバイクと共に参加してくれました。これから暗闇の場所が続くので心強かったです。

大土呂駅の休憩場所には畑君が応援に駆けつけてくれました。23:00過ぎているにもかかわらず、わざわざ来てくれたことに對しては丁度いい刺激になりました。(足がだんだん痛くなって、少し苦しみの表情)

八幡神社、文殊運送事務所、伊藤園事務所において小休憩をとりながら通過して行き、福井市天神のローソンに到着。ちようど日付も変わり疲れと眠気が襲ってきたせいか参加者のほとんどが言葉数少なめでした。ここでは夜食等をとるために50分の休憩がありました。福井YEGの女神である山本直前会長、そして



小辻君が労をねぎらいに来て下さいました。ここで松田副会長、上松君は帰ることになりましたが、長いこと一緒に歩いて頂いて感謝！(当然疲れてはいるが、岡山副委員長と私が唯一残ったYEGメンバーであることに気づき、ここからが正念場ということで気を引き締め直した表情)

天神のローソンから出発後、最大の難関とも言える美山トンネルをくぐって、JR美山駅に着いた頃には空がうっすら明るくなって来たにもかかわらず、自分の顔の表情が固まり始めてきました。足も体もあちこちかなり痛い状態でした。(無表情)

川上の集会所の休憩場所には菊副会長、松井君が応援に駆けつけて笑顔で対応しないといけないのに作り笑いしかできない状態でした。ごめんなさい。川上の集会所を出ると大野市に入りました。最後の亀山裏の休憩所まで3.5キロですが、かなり遠かった様な感じがしました。(苦痛の表情)

亀山裏の休憩所ではもう一踏ん張りということで参加者から笑顔や言葉が出てくる様になり、やっと思いで大野商工会議所に岡山副委員長と共に到着しました。最後に宮本会長、高木副会長、松田副会長、見谷君もゴール地点で来て下さったことで気が楽になりました。川瀬会長の到着報告、松田専務理事の挨拶、記念撮影の後に出たサバ定食が格別においしかったことを今でも余韻に残っています。

今回は初めての試みとして、歩いている様子をFacebookで大野商工会議所青年部がこまめに発信し、寄せられた応援メッセージを各休憩所で参加者に伝えていました。これには参加者の皆様も励みになった様でした。

岡山副委員長と一緒に歩いて達成感を味わい、また大野YEG・勝山YEGの皆様にも助けられ、そして福井YEGにも応援して頂いた経験は格別のものでした。会員の皆様、是非参加をしてみたいかがでしょうか。

【取材担当：朝田健一】



11月8日(火) YEGビジネス塾 “即戦” ③

「お客様の真のニーズを引き出す質問とは？」

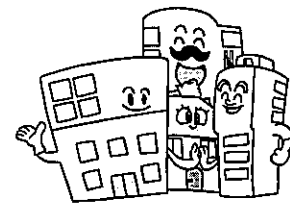
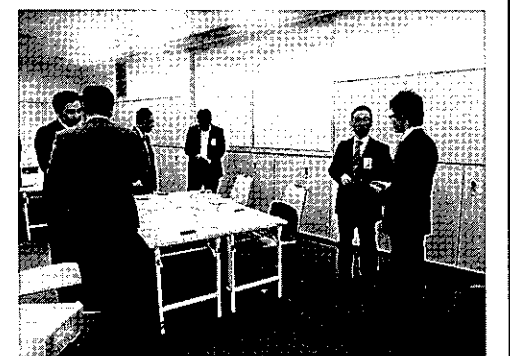
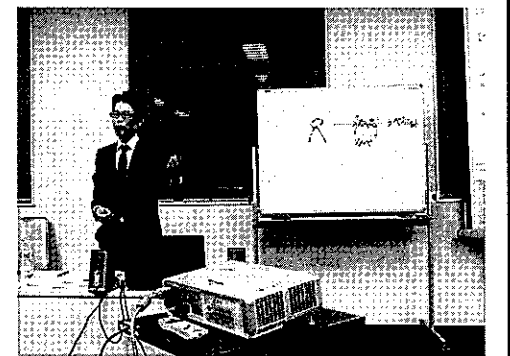
11月8日(火)、福井商工会議所ビル会議室Aにて、最終3回目となるビジネス塾“即戦”を開催しました。

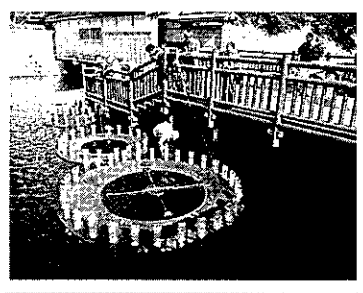
講師には石川県から株式会社office・cando ネットワーク講師 浜田隆光氏をお招きし、主にコミュニケーションの中でも営業に関する手法、考え方を学びました。浜田氏はLABプロファイル 認定コンサルタント&トレーナーという、日本に数人しかいない専門家であり、数多くのカウンセリングを通して営業心理学を学んで来られた方です。

当日は営業コミュニケーションに関する講義のほか、グループを3班に分け、グループ内でセールスポイントや宣伝の仕方についての討議を行ったり、実践的に参加者が考えるスタイルで中身の濃い研修となりました。

「コミュニケーションで最も大切なことは、相手の言わない本音の部分を知ることであり」というピーター・ドラッカーの言葉を引用してのお話もありましたが、営業で最も重要なことはリサーチである、という浜田氏のお考えもあり、いかにして相手のニーズを引き出すかという点について、短い時間ながら様々な角度からご教示頂きました。

普段当たり前と思って実践しているようなことでもあらためて理論から考えることで新たな気づきがあり、とても濃い90分となりました。





お堀の灯り

7月16日(土)、県庁のお堀で開催された順化地区「お堀の灯り」に協力しました。このイベントに協力する発端は、当初4月に順化公民館と協働開催予定だったまち歩き事業の話を進める中、「お堀の灯り」も4月に実施予定だったことから、順化公民館から協力の話がありました。お堀の灯りの空襲・震災で亡くなった方々の鎮魂という意味に賛同し、相互協力と交流を目的として協力するに至りました。それから、お堀の灯り実行委員会では灯り部会として会議に出席し、昨年度2月19日には直径7.2mの「輪灯」製作。そして、7月2日(土)の「単灯」製作と準備段階から協力を行ってきました。今年も、東北震災で亡くなった方々の鎮魂と空襲・震災・水害を乗り越えてきた「不死鳥福井からの祈り」として、復興へのメッセージを発信する意味も込められて実施されました。そもそも順化地区では、福井空襲・福井大地震でお堀に難を逃れようとして亡くなった方々を鎮魂するため、昭和42年に城址御本城橋たもとに供養塔を建立(後に足羽山に移転)以来毎年「万霊供養法要」を執り行ない、今年で45回目を数える伝統行事となっており、これに加え、平成22年からお堀の灯りは実施され、今年で2回目を数えます。

当日は、大変暑いなか、ペットボトルでつくられたキャンドル容器の下準備から始まり、輪灯の組立てをお堀の浅瀬で行い、灯りをポットに乗ってお堀に配置する作業などを行いました。ポットの操作は、菊副会長が担当しました。初めての操作であったに関わらず時を重なる毎に立派な操作技術を取っておいりました(笑)。なかなかお堀の中をポットで滑走する機会はないため、貴重な経験を楽しみながらの作業でしたが、当日は猛暑、お堀の上では涼やかな風が流れるとはいえ、炎天下の中、全800個のキャンドル配置は大変な苦勞をおかけいたしました。そして、点灯セレモニーでは、お堀の灯りに協力する各団体、県会議員・市会議員と並んで、宮本会長も参列&キャンドルに点灯いただきました。点灯した当初は、まだ日も高く、キャンドルが点いているのかわからない状態でしたが、だんだん暗くなるにつれ、夜間に浮かぶキャンドルが美しく輝き、それを見に来る来場者も増えてきました。

お堀だけでなく、福井神社、御廊下橋、県庁広場などに「観月の夕べ」や「おつくね祭り」などの市内でキャンドルイベントを実施している団体の協力のもと、大変美しいキャンドルで彩られました。たった1日のイベントでもっといいたいぐらいのイベントで、汗をかいて準備したメンバーも名残惜しそうちに、灯りを見ていたのが印象的でした。

そして、参加した工藤さんに「やってよかった！すごくきれいなじゃないか」と言わしめた「お堀の灯り」。また来年も協力していければと思います。

(追記)翌日のキャンドル撤収作業では、菊船長の操作技術はさらに磨かれていました。

【取材担当:坂田守史】

リレーフォーライフ in ふくい2011



9月23日(金) 12:00より、福井健康の森、400Mトラックにおいて、「リレーフォーライフ in ふくい 2011」が開催されました。

この企画の参加者というと、アントレキッズの打ち上げの時にその場にいた面々。すなわち、ほろ酔いかげんのなか、勢いで強制参加(強制連行?ともいう)を決めた行動力のある人たちのなです。

その日は、秋晴れのすがすがしい日になりました。準備も終え、最初に宮本会長がスタート。順調よく行くはずが、スタート後30分して突然の雨。これからのような試練が待ち構えているのか? 青年部魂が試されているのかのような場面も。

その後も工藤さん、板倉委員長、菊副会長、高木さん、岡山さんと順調にいき、真夜中の担当者。高木副会長、水元監事、小辻さん、上松の順番です。寒くほとんど誰も歩いていない寂しい感じが漂うトラックを、我々青年部は、順調に周回を重ねるの(で)した。(会長タオルのタスキが途切れないのはうちらだけ?)

その後も、村上さん、松田副会長、見谷夫妻、坂田委員長と渡って、最後の朝田委員長にバトンタッチ。最後は、その場にいた、全員でゴール。大変、やりきった感のあつた、イベントとなりました。最後に参加された皆さま、事務局の高山さんおつかれさまでした。

【取材担当:上松悦志】

大野YEG創立25周年記念式典に参加して

平成23年11月5日(土)に場所は越前おのまちなか交流センター多目的ホールへ福井YEG会員13名で参加しました。

13:45から記念式典が始まりまして、大野YEGの川瀬会長、大野商工会議所会頭の稲山様よりご挨拶を頂きました。その後、満田福井県副知事、岡田大野市長、山崎参議院議員、前川福井県連会長からご祝辞を頂きました。その中でも満田副知事の話にあつた、試しにやってみること(挑戦すること)、とにかく早く動くこと(急ぐことができること)の2点が青年部には求められているという言葉が印象深かったです。

続いて15:00から石澤清史氏による「生命の源「水と食」の安全・安心を考える」というテーマで記念講演を頂きました。

最初に水の安全性ということで地球上の今の水事情とこれからの水事情について、世界の工業化・都市化・人口増加がすすむにつれてますます水が得られなくなっていること、韓国やシンガポールでは国家戦略としてウォータービジネスを推奨していること、日本では旭化成・東レ・テイジン等の企業が真水の分子しか通さない技術「逆浸透膜システム」を全世界へ提供していることを話されました。

次に、食生活の安全性について、現在23カ国8億人が飢餓状況におかれています。日本は食糧自給率40%以下に落ち込み世界最大の農産物輸入国となっていることです。(裏を返せば水を輸入している事と同じだそうです。)さらに衝撃的な事は、日本では毎年1,940万トンが食品廃棄物として捨てており、その内の約24%は忘年会、結婚式に出る料理の捨てる割合であります。したがって水不足になることで食糧不足に陥り、紛争の発生・激化や衛生面の低下などが心配されること

歩くざふくい「お市・お江・勝姫3世代の絆
~福井の歴史・まち並みを歩いて知ろう!!~



タイトルでもありますが、お市・お江・勝姫の3世代がどう福井とつながりがあったのかを、周辺の人物相関図をもとに紐解きました。

その後、いざ!まち歩きへと出発。道中のガイドは午前からの吉田君、午後の部は奥田君が務めました。福井城の歴史からその周囲、今見ることが出来る名残、そして福井の町並みの変遷などを参加者に伝えました。リハールを2回行った甲斐もあり、なかなかの名ガイドぶりだったのでいいでしょう。個人的にはご婦人方びびりたりと寄り添って道中をエスコートしていた奥田君の姿が印象深いです。「うるしギョウリ(久右衛門)」「フアール福井」「こじら工房」「戦国の館」と駅前各店舗を巡り、店主にお店、商品の紹介、そして仕事に掛ける思いを語っていただきました。その後、福そばで軽食。店主の「出汁(だし)」にかける思いは素晴らしい、各種魚の節まで持ち出していただいて語る姿はまさに「名物おやし」(ごめんなさい!汗)そのものでした。

ゴール地点の柴田神社では、足羽山の自然史博物館に掲げた羽柴(豊臣)家の陣幕・のぼりで、当時の柴田勝家との戦の風景を再現したサブライズ企画あり。陣幕・のぼりが立つ瞬間、参加者からは歓声があがりました。

そして資料館内で松井先生による大河ドラマ原作の朗読会。越前北の庄でのシーンをハープの演奏とともに朗読。特に勝家と姫たちが絆を深めるシーンや、落城に際しての今生の別れのシーンでは、目頭が熱くなったのではないのでしょうか。最後に参加者の方々に茶とお菓子をお振舞われ無事に終了しました。今回のまちあるきも見所満載かつボリューム満天な内容でありました。特に春先に一度中止になったということもあり、今回の事業に掛ける思い、意気込みは各自ひとしおだったのではないのでしょうか。

【取材担当:佐々木俊二】



とにより決して人事ではない様に感じました。その他、現代食の傾向としまして、ご食化傾向(個食・孤食・子食・外食・5食)にあるとのこと。

最後に今、私達ができることとして食品廃棄物を減らしたり、リサイクルしたり、地産地消を推進することが必要であり、冒頭に先生が言われた「もったいない」精神でこれからも臨んでいかないとはいけなないと思われました。

17:00からの祝賀会では、奥越太鼓の演奏の準備に時間がありませんでしたので、富山YEGの尾山筆頭副会長と柴田さんの迷コンビ、プラス福井県連役員で全国大会中富山大会のPRをしておりました。まず奥越太鼓の演奏から始まり、コスプレマジシャンあいかさんのマジックショー、最後に各単体会長に質問しながらのビンゴゲームといった流れで、実に趣向を凝らした大変おもしろい祝賀会でした。

ひとつ気になったところで、川瀬会長が最初の挨拶で「懇親会あつてのYEG」ということを強調しておりました。その真意を本人から聞いたところ、この懇親会のアイディアはメンバーと飲みながら次から次へと意見を出し合いながら屈託のない討論ができて生まれたものだと熱弁されておりました。

さすが大野YEG!そしてありがとう大野YEG!

【取材担当:朝田健二】

日本商工会議所青年部 第29回 全国会長研修会「やまがた米沢会議」に参加して



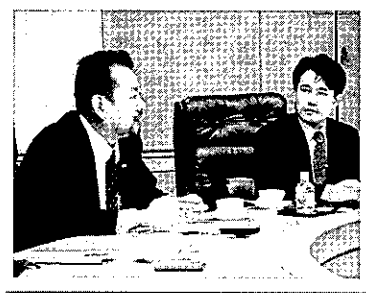
11月11日(金)、12日(土)の2日間、全国会長研修会「やまがた米沢会議」に宮本会長、高木副会長、清川監事、高山事務局、朝田5名で行ってきました。

大会会場の米沢市民文化会館へ着いた時にはすごい人数で、近畿ブロック大会登録者数並みの約1,300名の登録があったとのこと。(驚)
受付を済ませたらすぐに会員総会が13時に審議事項から始まりました。中でも注目なのが、平成24年度の委員長発表の時に福井YEGから清川君が慎重なる審議の結果、日本YEGの次年度広報委員長にこの場で選ばれたこと、大変誇らしく思いました。報告事項においては、平成24年度の全国会長研修会は三重県の津で行なわれ、全国大会は沖縄で行なわれます。平成25年度の全国会長研修会は熊本県の水俣で行なわれ、全国大会は栃木県の宇都宮で行なわれます。その他、東日本大震災の義援金の事についての報告と2020年第32回オリンピック競技大会の東京招致に関する決議報告がございました。

続いて開会式が14時から厳粛なムードで始まり、兵頭日本YEG会長、中村日本商工会議所専務理事、島貫やまがた米沢会議大会会長、酒井米沢商工会議所会頭が挨拶され、豊國東北経済産業局長、吉村山形県知事、安部米沢市長から祝辞を頂きました。挨拶の中で中村専務理事がおっしゃった「ネットワークを中心としたイノベーション」を起すこと、酒井会頭がおっしゃった「リーダーとは希望を配る人」になること、この2点がとても印象深かったです。

次に米沢の武将の名前にちなんだ4つの分科会(景勝塾、謙信塾、兼続塾、慶次塾)にそれぞれ移動し、私(朝田)は、16時から慶次塾に参加してきました。内容としては「持続的収益に必要なことは何か?」というお題で志村勉山形大学大学院教授にご講義頂きました。開口一番、先生は「学ぶのではなく気づいて帰って欲しい」とおっしゃいました。まず、リーダーが明確な目的と具体的に現実的、期限が区切られている尚且つ測定および評価できる目標を掲げること。的確に設定された目標に向かって集中している理由が明快に説明できる戦略、例えば21世紀の市場の変化を掴み取って、市場を自ら作り込み(ターゲットを絞る)顧客の心を得る戦略と計画をたてること。最後に目標達成までの実行とマネジメントとあきらめない情熱が大事だとおっしゃって頂きました。それらのことについてマクドナルド等を例に挙げてわかりやすく説明して頂きました。

19時から別々の会場で大懇親会をしまして、他県のYEGとも話ができて親睦を深めることが出来ました。ちなみに料理については特に米沢牛のサイコロステーキがおいしかったです!大懇親会後は、福井県連と一緒に楽しいひとときを過ごさせて頂きました。2日目は9時30分から全体研修会としまして、坂本桂一氏が「君は、スレッシュホールドを超えられるか?」成功を掴みとるための必要条件というテーマで講演頂きました。(スレッシュホールドの大小が質の転換に変わる瞬間。しきい値。)
最初にスレッシュホールドとは?ということと具体的な



財務省広報室長兼、財務総合政策研究所・客員研究員の瀧波宏文氏の懇談会

平成24年1月28日(土) 13:00から、福井商工会議所ビルにおいて財務省広報室長兼、財務総合政策研究所・客員研究員の瀧波宏文氏との懇談会を行いました。

福井YEGからは、宮本会長、高木副会長、松田副会長、鷲田副会長、菊副会長、宇佐美顧問、村中相談役、今井委員長、坂田委員長、岡山副委員長、福田副委員長、五十嵐副委員長、山岸副委員長、佐々木副委員長、伊藤君、松井君、朝田の17名の参加でした。

高山事務局の進行で、早速、瀧波宏文氏から「アメリカから見た日本、福井から見た日本・アメリカ」と題して講演して頂きました。

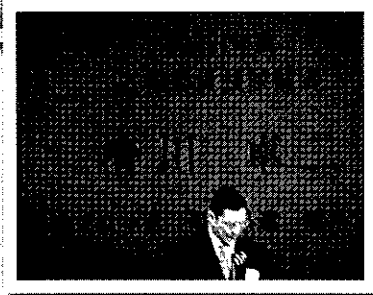
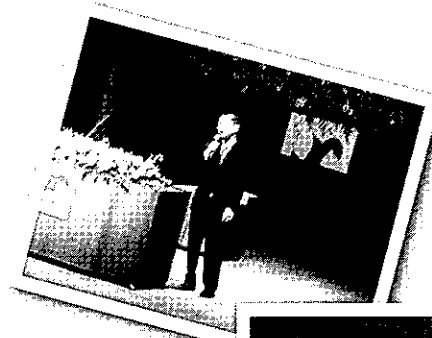
瀧波氏は福井県立大野高校を卒業後、東京大学法学部に進学し卒業後、大蔵省に入りました。現在は財務省広報室長並びに財務総合政策研究所・客員研究員を務めておられます。

にアメリカから見た日本をお話頂きました。その中で、ジョン・ルー・ス駐日アメリカ大使とは4度お会いになっており、2度目の時にルー大使の講演で小浜市の事(オバマ大統領にエールを送り続けていること)を真っ先に褒めていたことが印象深かったことを話されました。しかし、日本として見ると今後の少子高齢化問題と中国台頭への対処の問題が停滞していることや、何よりもまず日本人が理解されて当然と思う中国との区別(文化や娯楽など)がアメリカ人には理解されていない人がいること、中国政府は決断力があり、日本政府は決断力に欠けるなど、今の日本の現状や課題を紹介して頂きました。

次に福井から見た日本・アメリカですが、都市化による「いなか」の位置づけが変化しており、すなわち故郷の意識が薄れてきていることや、「いなか」の非効率性からの脱却が進んでいることから、現在の日本を含む資本主義社会においては自由市場による弱肉強食の当然視をされていることです。福井に絞ると市場が小さいので競争力強化は必須です。その問題を打開する為に事例として、アメリカにあるシリコンバレーのモデルを参考にすると良いと話されました。シリコンバレーのポイントとして、人材・技術の集積がはかれること、地域的なブランド・イメージを確立できること、スタートアップ会社への資金提供環境を整えることができることが挙げられます。また、原子力発電所

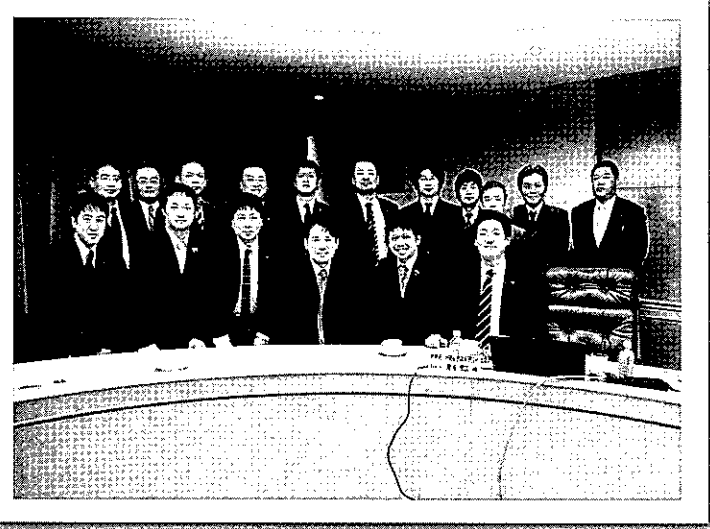
例として①7.9g/s(第一宇宙速度)で人工衛星を飛ばさないといけない。それ未満だったらたまただの砲弾にすぎないこと。②試験で600点が合格ラインだとしたら、600点は合格だが、599点以下は不合格(599点をとるための努力は無駄)。③ウランが21kgでは何も起こらないが、22kgでは臨界が起り爆発する。これら3つを挙げて説明しました。

ではスレッシュホールドを超えるためには努力をすることが必要であり、具体的にあれもこれも手を出さない。(1つ)のことに労力をかける。可能性はあるものを未来に向かってやる。何事もねちっこい。(しっこい。)↓孫正義氏やビル・ゲイツ氏だそう。そして自分の経験をふまえて、スピード感を持つ。大小関わらず自分が世界の作り手になる。企画書で1つを明記するのではなく、他に何個か別の視点でとらえる。競争意識を持たせる。あらゆる努力・リソースを駆使すること(人脈・資金がなくても何とかなる。)が大事です。閉会式が終わり、13時40分にJR米沢駅から帰り、20時10分頃にJR福井駅に到着しました。



の安全対策の必要性を重点におき、最新技術の可能性を追い求めて、地場産業といかに融合することが大事だということでした。
最後に瀧波氏のモットーである勤勉・正直・感謝をもとに、日本とアメリカは互いの不信を超えて共通利益に向けて協力できるかが、お互いの信頼につながる事となると締めくくりました。
これからも趣味の一つである福井プロモートをどんどん行なって頂き、ますますのご活躍を願っております。

【取材担当：朝田健一】



1月26日

第2回キャリア教育アワード



1月26日(木)、東京有楽町朝日ホールで開かれたキャリア教育推進連携シンポジウムに参加致しました。最初にキャリア教育アワードのプレゼンが行われ、表彰式で各部門の最優秀賞、大賞が決定される、というスケジュールでした。

プレゼンの時点で、既に優秀賞として7社が決定しており、地域ネットワーク型キャリア教育部門で福井YEGが表彰されました。表彰後、キャリア教育最優秀賞、大賞を決めるプレゼンテーションへ。

プレゼンは、清川さんが7社中の2番目、福井YEGがトリの7番目。全国の学校関係者、行政、民間企業の方ら700名で埋め尽くされた会場は、立ち見が出るほど超満員です。

プレゼン時間は8分間厳守。時間を最大限に活用し、清川さん、宮本会長、双方ともにノミズで最高のプレゼンで終えました。他社の取り組みも、これまで我々のキャリア教育とはまた別の新しい形があり、非常に参考になるとともに、プレゼンも優秀でどれも素晴らしい、甲乙つけがたい、激戦の様相を呈していました。

その後、アフラック創業者 大竹美喜氏による基調講演

演、学校関係者による事例発表、そしてパネリスト4名とコーディネーターによる、「みんなで創る子供たちの未来」と題した、パネルディスカッションでは、キャリア教育が次のステージに入り、地域社会・学校・国が連携していくステージに入ったとの意見が印象的でした。

17:00となり、いよいよ表彰式の発表となりました。

発表の結果・・・普及型部門ではシャープ株式会社様が、地域密着型部門では西島製作所様が、地域ネットワーク型部門では、福井YEGが選ばれ、そして、3社の中のキャリア教育アワード大賞として、福井YEGが選ばれました！

審査委員長の三菱総合研究所理事長、小宮山宏氏によれば、地方では優秀なベンチャー企業、中小企業がたくさんあるのに、若者がそういった企業を選択しないミスマッチがおきている現状があり、それを踏まえ地域の青年経済人が地元の次世代の要員を育てている点、を評価頂きました。また、アントレ・キッズのマニュアルをプロトタイプとして公開し、各地域がカスタマイズしていくことが重要であり、戦後、日本には教育要綱があり、それが日本の教育を伸ばしたことを例に、ご講演を頂きました。

今回の大賞を経て、これまでの6年間の取り組みが評価されたことをとても光栄に思うとともに、アントレ・キッズも、普及していく整備が必要になるなど、次の段階に入ったことで、新たな課題ができました。

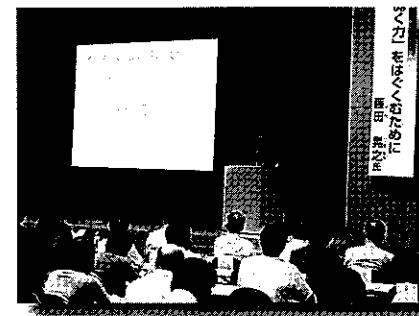
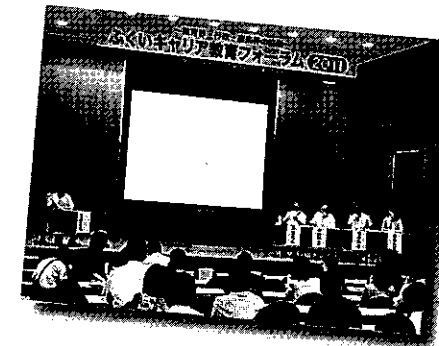
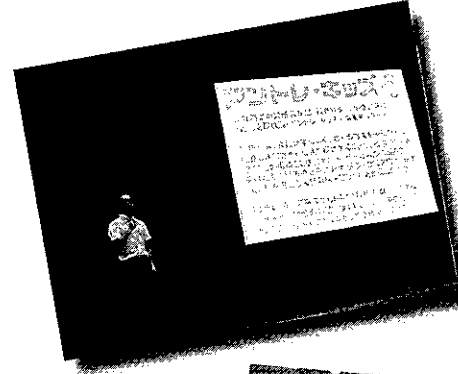
また、個人的な感想ですが、シンポジウムに参加して、メンバーの団結が強くなるとともに、アワード大賞を受賞するなど、歴史が作られた瞬間に立ち会えたことは、非常に嬉しく思います。

今後も更なる進化を続けていくアントレ・キッズをどうぞご期待ください。

【取材担当：村上武雄】

8月28日

引き出せ”生きぬく力” ふくいキャリア教育フォーラム2011



学校 企業 地域 保護者連携の第二歩 初の共同開催フォーラム大成功

8月28日、福井県自治会館(福井市)にて、ふくいキャリア教育フォーラム「引き出せ”生きぬく力”」が開かれました。4月に入ってから立ち上げた企画であり、その時の予算は、700円しかしながら、福井青年会議所さん、福井経済同友会さん、福井法人会さん、福井市PTA連合会さん、福井県経営者協会さんのご協力のおかげで大成功となりました。これらの団体で作る実行委員会が主催するという形をとり、小学校から高校までのキャリア教育について学校、企業、地域が連携しながら作るキャリア教育福井モデルについて考えることを目的に開催されました。冒頭で県教育長のあいさつがあり、会途中で福井県知事もかけつけるなど注目度の高さを物語っていました。藤田晃之氏(国立教育政策研究所 生徒指導研究センター 総括研究員)の基調講演に続き、各事例発表、パネルディスカッションなどが行われました。論客揃いのパネルディスカッションでは、議論が白熱、4時間近いフォーラムですが、最後まで多くの人がご参加頂きました。

【取材担当：清川卓二】

平成23年度を振り返って

総務・渉外委員会



委員長 朝田 健一

まず、福井YEG会員皆様に対して1年間、総務・渉外委員会の活動にご協力並びにご参加頂きまして誠にありがとうございました。私の対応で会員皆様に対して少々強引な所もあったかと存じますが、この場をお借りしましてどうかお許し下さい。

さて、平成23年度は実に中身の濃い、充実した1年であったかと思えます。1つ1つ事業を拾っていくと長くなってしまうので私なりに特に印象深かったことだけを何点か絞らせて頂きます。

昨年の東日本大震災において、被災された方々に対して何かできないかということで、義援金の寄付はもちろんの事、福井YEG復興支援名刺を作らせて頂きました。この名刺1枚につき10円が日本YEGを通して、復興義援金として寄付される仕組みです。また、お歳暮の時期を利用して福島工アポルトサービスから被災地の商品の資料をご提供頂き、12月の定期総会などで紹介させて頂きました。次年度以降も名刺につきましては同じ方法で、そして違った方法でも関わっていかうと思えます。

今でも思い出す足がうずく昨年の6月25、26日に行なわれました大野YEG主催の半夏生サバ買い出しウォーキングに岡山副委員長と参加したことです。こ

311の震災をとうして今後の自分の行動、情報に振り回されずに被災地の現状の把握などとして1番は出来事から目をそむけず決して忘れないと言う事を勉強しました。最後に1月では、魂の目標をたてるのと事で新たな試みで2つの分科会、座禅と華道を行いメンバーそれぞれ真剣な眼差しで自分と向き合ってくれました。これら全てを通して気付いた事は「参加が全ての始まりである。」と言う事です。

最後になりますが、当委員会の事業に参画して下さった会員の皆様ありがとうございます。私自身、委員長という職を通して沢山の学び、それよりも仲間の大切さを学びました。素晴らしい委員会メンバーの皆様、本当に感謝致します。ありがとうございます。

「初心忘れるべからず」
イチ、ニ、ティスカバリー!!!

ビジネス研修委員会



委員長 今井 順也

若きビジネスリーダーの集まるYEGの中で、ビジネス系の委員長という大役を賜り1年、反省すべきこともたくさんありますが、周囲の方にも支えられ自由に企画を楽しませて頂くことができた年でした。

外部の方も招いた2回のオープン例会では坂本光司先生、富田社長と私の呼びかけた講師をお呼びすることができ、ほぼ公私混同で委員長の特権を最大限に利用させて頂いたなあと思います(笑)。また、全3回のビジネス塾では少人数制でビジネスの実践に関わる手法を学ぶことができ、ビジネス情報誌「買おっさ」の発行では、YEGの内側でビジネスの輪を繋げることが出来ないかと考えてきました。

の時は宮本会長を始めとする会員の皆様が応援だけでも充分なのに、我々と一緒に途中まで歩いて頂いたこととはどれほど励みになったかと思うと胸がこみ上げてきます。そのおかげで57キロの道のりを2人とも完歩することができました。

後、尾山大会会長率いる富山県連の皆様が2月17、18日の全国大会越中富山大会に向けて、近畿ブロック明石大会、大野YEG創立25周年記念式典、全国会長研修会やまがた米沢会議に熱心にPRしに来ている姿(特に尾山節)が印象的でした。その熱意のこもった大会に参加できたことをとても光栄に思います。もちろん2月4日の県連大会教賀大会の時も、教賀YEGの皆様を始め、福井県連役員の方々のアツイ思いを汲み取ることができた充実した大会でした。次は福井YEGの番です！教賀YEGに負けないぐらいの大会を行ないましょう！

今回、総務・渉外委員長を務めさせて頂きまして、福井YEG会員のみならず、福井県連の皆様、全国のYEGの皆様、その他各種団体の皆様と出会い、「絆」ができたと自負しております。このことはこれからの日常においても、そしてYEG活動にも活かされると確信しております。最後に暴走気味の私に身近に付き合ってくれました松田副会長、委員会メンバーには改めて心から御礼申し上げます。

会員交流促進委員会



委員長 天野 準一

平成23年度会員交流促進委員会委員長をさせて頂きだきました天野準一です。初めて委員長という重責をいただき、一年間務めさせ

ビジネス研修はYEGを離れても重要なテーマであり、今回の委員長職を通して自らのビジネス力向上に繋がるヒントをたくさん頂くことが出来ました。特に坂本先生の講演の主題でもあった「地域社会への貢献を意識した事業経営のあり方」というものは我々地方の青年経済人には普遍的なテーマであり、自らの仕事の中でも果たして何が出来たかを意識した1年でもありました。

割と前半に担当事業が集中したため、後半の企画が尻すばみ気味になった点は反省ですが、やりたかった事業を経験させて頂き、委員メンバーをはじめ、頼りない委員長を支えて下さった皆様に感謝致します。

地域活性化委員会



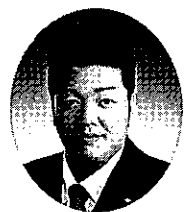
委員長 坂田 守史

初委員長を平成23年度地域活性化委員長として拝命し、早1年。当委員会は次年度4月まで歩きまで走り続けるのですが、本当に1年間走りつばなしな委員会でした。

3月から春まつりのまち歩き企画するも震災のイベント自粛で中止。足羽川川木桜商品化を今年で検討。7月は会員交流促進委員会の三地区交流会に企画参画実施。そして順化地区の「お堀の灯り」に青年部有志で参加。8月例会夏まつり参画は子ども風鈴展示・縁日・ウォークラリーにふくい片町青年会と協働でまち歩き開催。10月に春中止になった「江」をテーマにしたまち歩きを再実施。11月は場所文化機構の後藤健市氏を迎えてのオープン例会。そして、4月春まつりのまち歩き企画。役員会に議案書を出さなかった月は1回。こうして振り返ると副委員長はじめ、委員メン

ていただきました。新入会員の皆さんの入る委員会の委員長という事で大変な責任の中、伝えなければいけないことを十分に伝えられたのか、今でも悩み考えております。委員会のつど、そして例会のつど本当に周りの皆さんに助けられながらの一年間だったと思えます。今回役をくださった執行部の皆さまに、そしてたくさん助けをいただいた他の委員長、委員会メンバーの皆さま、なにより一年間一緒に頑張ってくれた当委員会メンバーの皆さまに心から感謝を伝えたいと思えます。

ティスカバリー委員会



委員長 板倉 雄一

自分の人生において忘れられない1年となりました。ティスカバリーってなにをするのですか？「発見...」始めての委員長を拝命し、まず取り掛かったのは会長の所信を何度も読む所でした。それでも自分に落ちきれず迎えた4月の役員会はボロボロでした。初めから挫けそうになり悩みぬいたスタートでした。

しかし、私一人ではなく回りには素敵な副会長、副委員長、委員会メンバーのサポートがあったからこそ1年間やり遂げたことに尽きると思えます。月日が立つにつれ委員会が楽しくて仕方ありませんでした。会員の皆さんが発見してもらおう楽しみに、かれ会長の思い、委員長としての思いがリンクしてきた時は最高でした。5月のSNSを通して新たな自分の発見。早い段階でのFBの勉強でした。今じゃ当たり前のように皆さん活用しています。9月例会では、

パーには本当に頭が上がりません。そして、会員全員で行う対外事業がほとんどなため、会員の皆様に支えられてきたのを噛みしめ、ただただ感謝です。平成24年度は初副会長、担当はまち系。まだまだ走らなげやいけないようです。次年度は佐々木委員長と熱苦しくハアハア言うことになると思うので、引き続きよろしくお願いします。

未来創造チャレンジ委員会



委員長 清川 卓二

無から有を作り出すYEG魂！

H23年度、歴代会長が集まった「未来創造チャレンジ室」そして、各委員会からの出向メンバーが集まった「未来創造チャレンジ室」刺激的な1年間でした。宮本会長より、「えきまえアントレ・キッズ」のシステム化をはかり、次年度委員会が活動し易い状況への指示の元、マニュアル整備、運用手順整備を行いました。さらに、「無から有へ」引退間際の歴代会長

現易者が、久しぶりに現場復帰！YEG魂を発揮しようとして実施した「2011ふくいキャリア教育フォーラム」は、福井の経済人、教師、保護者をはじめ文部科学省や他県NPOの方々が多数ご参加頂き盛大に行うことができました。福井JCさんや経済同友会さんとのコラボ実行委員会は、協働の旗印の元、福井が一体となった活動でした。更に、「第二回 キャリア教育アワード 経済産業大臣賞 最優秀 大賞」にて日本一になった「アントレ・キッズ」は、福井YEGブランドを日本全国へ発信することができました。次年度は、福井YEGブランドを更に社会のために活動頂きたいと思えます。みなさんありがとうございます。

次年度会長抱負



平成24年度会長

高木 秀 樹

平成24年度のスローガン

人とつながり 明日をつくる
〜活かせ出合いのチャンス!〜
企業と地域の活力は人のつながりから〜

平成24年度会長を拝命しました高木秀樹です。どうぞよろしくお願ひ致します。

我々は青年経済人の集まりであり、自身の企業がしつかりと事業を成して地域貢献ができることが基本であります。その為には我々自身の資質向上と自己成長が必要です。今年度はスローガンにありますように、人とのつながりを通じて自己成長し地域経済の発展と地域活性化を目的に行動して行きます。

出合いのチャンスがたくさんあるYEG活動。人は、自分自身でどんなに磨いても限界がある。しかし、人は、他人とのちよつとした出逢いで、一瞬にして変わる。人は人でしか、磨けない。YEG活動を通じて出会う人とのつながりを大切に行動して行きます。

総務・渉外委員会



委員長 岡 山 宇 太 郎

総務・渉外委員会委員長を拝命しました岡山です。委員長依頼を聞いたとき、自分の小遣いや行動の計画すらできていないのに福井YEGの予算や行事の計画なんて無理かなと思いましたが、そういう年齢になって御鉢が回ってきたんだと自分に言い聞かせ、受けることにしました。とはいえつても総務が崩れたら組織は崩壊しますので超優秀な副委員長を選抜し、高木丸を大海原へ安心して航海できる準備を整いました。個性あふれる優秀なメンバーと共にポトムアップな委員会をやっていきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

一生のつながり作り委員会



委員長 天 野 準 一

昨年度に引き続き委員長をさせていただくことになりました。

今回「一生のつながり作り委員会」という委員会名にいたしました。この「一生のつながり」とは何でしょうか。私は現在、そして未来にわたり人とお付き合いが出来る仲間との「関係」のことだと思っています。

これからのYEG人生、そしてその後の長い人生、ともに励ましあえる一生の仲間をこのYEGで見つけようじゃありませんか!

未来とのつながり委員会



委員長 朝 田 健 一

平成24年度、未来とのつながり委員会の委員長を務めさせて頂きます朝田健一です。

この委員会では、平成24年1月26日に行なわれました第2回キャリア教育アワードにおいて経済産業大臣賞を受賞した「おしごと探検隊アントレ・キッズ」に関連する事業を行なっていく予定です。

大変名誉のある大賞をとった後ということ、私自身プレッシャーを感じています。しかし、これをチャンスと捉え、次世代を担う子供達に対して行政、産業界、教育界、地域、そして子供達の保護者と連携しながら職業観や社会性を養うキャリア教育事業の企画・運営及び発信を進めていきます。

アントレ・キッズ事業は福井YEG事業の核の一つです。そして常に進化していかなければなりません。その為にも会員皆様の力が不可欠ですので、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

ビジネスつながり委員会



委員長 玉 村 訓 大

平成24年度ビジネスつながり委員会の委員長を拝命致しました玉村です。よろしくお願ひ致します。

入会4年目を迎え、委員長という“大役”を任せられました。「頼まれ事は試され事」。今年1年間は会員の皆様に試されている年だと自分自身を奮い立たせ、これまでの3年間福井YEGで学んできた事を委員会活動に活かしていきたいと思えます。

今年度は、会員ひとりひとりに判断力や決断力など“力”を身につけていただき、青年部活動だけではなく自企業においても強いリーダーに成長するための事業や研修を行ってまいります。

新米委員長ではありませんが、1年間より皆様とつながりがもてるよう邁進してまいりますのでご指導よろしくお願ひいたします。

地域つなげる委員会



委員長 佐 々 木 俊 一

まち系の委員会という、大上段に構えてガチガチに固まってしまいうようなイメージがあります。

ですが、身近なところ、目に見えているところから、何よりまず自分たちが楽しめるように取り組んでいきたいと思っております。一年間、みんなできいっしょに汗をかきたい、みんなできいっしょにハアハアいつて動きまわりたい。そして、「大変やったけど、やってみるとやっぱりおもしろい」「地域活性化事業への一番のエネルギーになる」と信じています。これを第一に、職務をまっとうして参ります。職務分掌にもあるように、当委員会が行なう事業の指針として、「協働」、「自立可能な事業」、という二つの言葉が柱になります。また、平成24年度は「地域つなげる委員会」という個人的なネーミングがつきます。「つながり」を大事にしたいという会長の思いです。二つの柱のもと、「地域をつなげる」事業を構築していきたいと思っております。まちづくりには、「若者」、「バ力者」、「よそ者」、「女性」、が必要だといえます。一年間、どうぞよろしくお願ひします。



㈱アイル
片山 貴之



㈱エヌアンドシイオウ
山本 義樹



㈱Ateliers
室田 高義



㈱トータルクリンタカシマ
高嶋 浩次

新入会員紹介



㈱フリーパッション
村田 真一



北川スチール㈱
北川 直



福井キャノン事務機㈱
丸木 治男



ブルデンシャル生命㈱
石丸 敦士



㈱Focal Trust
向井 裕



焼肉家 優
川中 優



㈱JTB中部 福井支店
岩田 純一



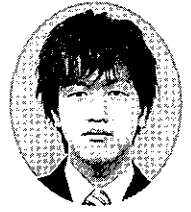
㈱不動産
小林 満只



テナブスタッフフォーラム㈱
西口 茂



㈱さんきち
佐武 真吾



委員長 松井 良平

今年は福井県連にとって大きな年を迎えます。

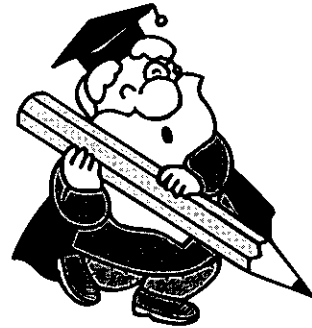
10月に開催される「近畿ブロック大会 若狭・小浜大会」

福井県連が一丸となって近プロの成功に向けて力を合わせる時になります。

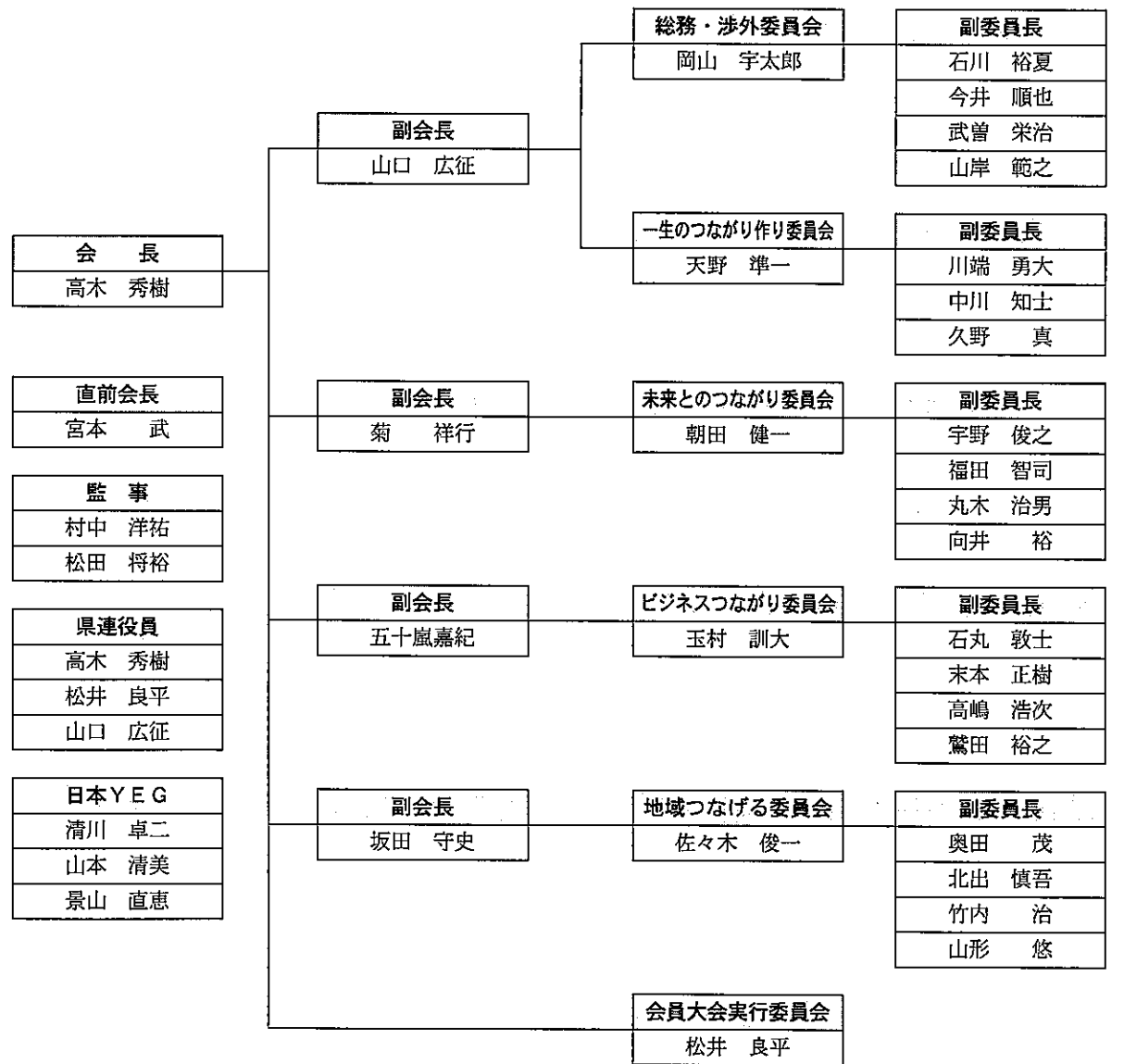
そして2月に行われる、会員大会ふくい大会。この福井大会の成功に向け福井YEGが一丸となつていく必要があります。

福井県連の会員が、「人とのつながり」交流

や連携の場となるような会員大会にしていき福井YEGらしい大会にしていきたいと思ひますので、ぜひとも皆様のお力添えをお願い致します。



平成24年度 福井商工会議所青年部 組織図



おめでとう



Baby Congratulation!



よねざわ ほのか
米澤 穂華ちゃん
米澤 稔喜 パパ
平成24年1月24日生
次女
泣き声も遅しく、非常に元気いっぱいです。お姉ちゃんと仲良く、お氣に育てて欲しいです。

Baby Congratulation!



はたけしたしんのすけ
畑下 真之介くん
畑下 徳洋 パパ
平成24年3月2日生
次男
待望の次男誕生うれしいです。

Baby Congratulation!



まつおか なな
松岡 奈奈ちゃん
松岡 茂 パパ
平成23年5月2日生
お兄ちゃんに暴力はやめましょう!

Baby Congratulation!



やなぎまち たかひろ
柳町 隆弘くん
柳町 剛弘 パパ
平成23年12月6日生
長男
これからたくさんあそんでね!
(いろんな意味で。)

Baby Congratulation!



きたぐち まほ
北口 真帆ちゃん
北口 裕司 パパ
平成24年1月27日生
長女
よろしくお願ひいたします。

結婚



Congratulation!



見谷 英邦君
〈婚姻日〉平成23年8月28日
〈式場〉迎賓館ビクトリア 聖マリア教会

お相手のお名前 (漢字・ふりがな)
み たに ゆう こ
見谷 裕子さん
(旧姓 吉川 よしかわ)
●なれそめ
英邦: 紹介で知り合いました。出会った時から幸せになれそうな気がしました。
裕子: 最初からいい人だなと思いました。会う毎に結婚への想いが強くなりました。
●相手の呼び名
ほく ゆうちゃん
●今後の抱負
英邦: 家族と一緒に楽しくご飯が食べれる様な家庭を作りたいです。
裕子: 何事も二人で力を合わせて乗り越えていきたいです。
●得意料理
ハンバーグ、パスタ

Congratulation!



島田 茂和君
〈婚姻日〉平成23年12月4日
〈式場〉ユアーズホテルフクイ

お相手のお名前 (漢字・ふりがな)
しま だ
島田 みえさん
(旧姓 稲葉 いなば)
●なれそめ
知人の紹介
●相手の呼び名
しいちゃん みえちゃん
●妻の得意料理
中華
●今後の抱負
お互い結婚前よりかなり太ってしまったのでとりあえずやせる事。

Congratulation!



柳町 剛弘君
〈婚姻日〉平成23年5月8日
〈式場〉ローズガーデン

お相手のお名前 (漢字・ふりがな)
やなぎ まち かおる
柳町 薫さん
(旧姓 村田 むらた)
●なれそめ
お互い最初から決めていました!
●相手の呼び名
よしくん かおる
●妻の得意料理
餃子、カレー
●今後の抱負
夫婦で力を合わせてどんなことがあっても乗り越えていこう!

西木田通信

まさに福井商工会議所青年部に
とって「激動」の平成23年度が終
ろうとしています。この会報に掲載
しきれないほどの多くの事柄があり
ました。それは、念願の事務局長
を射止めた私にとっても新鮮な日々
でした。その中で、青年部の発想力
と行動力、ネットワークの広さには
改めて感服しております。また、長
年の間に培われた会の運営スタイル
や自らが動いて事業を組み立ててい
く姿勢は流石だと思います。
今年度は、様々な団体との連携な
ど対外的な取組みも目立った年では
なかったでしょうか。宮本会長の掲
げたスローガン「無から有を生み出
す発想力と行動力で、新たなステ
ージへ」そのとおりの活動が出来たの
ではないかと思えます。新年度は、
高木新会長のもと、その新たなス
テージからさらにステップアップし
て、各界各所に福井商工会議所青年
部の名がどろくような活動を期待
しております。
会員の皆様、1年間本当にお疲れ
様でした。そして、日々の福井商工
会議所へのご協力に対しまして深く
感謝申し上げます。
(平成23年度 高山 浩)